

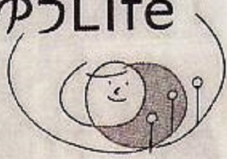
高齢者の大腸がん精密検査

自治体や人間ドックなどで大腸がん検診を受け、精密検査が必要と言われたら、大腸の内視鏡検査を受けなければならぬ。しかしこの検査、胃カメラ以上につらく苦しいとされ、高齢者は受診をためらいがちだ。また、費用が分かりづらいとの指摘もある。

(清水麻子)

- ・胃カメラより苦しいけど
- ・費用が分かりづらいけど
- ・大量の下剤を飲む…けど

ゆうゆうLife

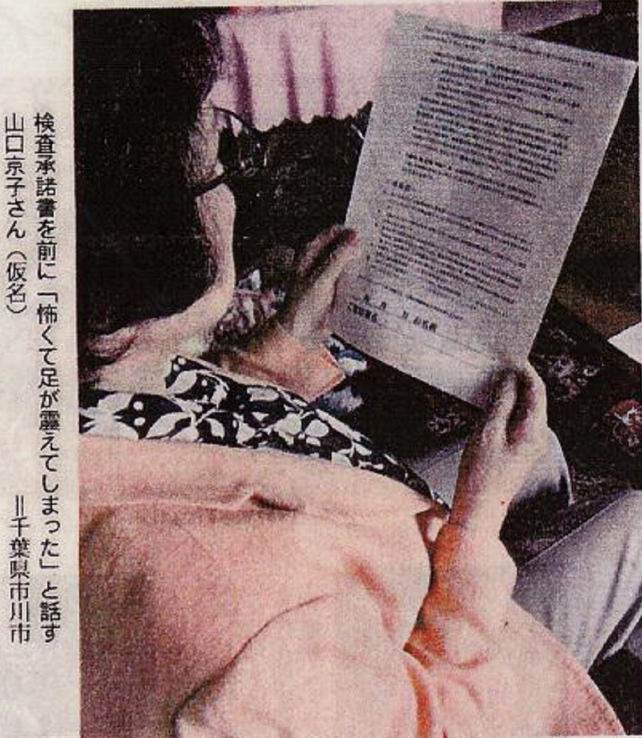


信頼性高い内視鏡

千葉県市川市の山口京子さん(79)は3月中旬、自治体の大腸がん検診の便潜血テストで陽性が出て「内視鏡検査ができる病院で精密検査してください」と言われた。この病院に行くべきか、費用はどの程度かかるのかなど詳細な説明はなく、分からないことだらけだった。しかし、このまま放置し、もしもがんだったら嫌だ。

医療機関からは、下剤を飲まない検査として、①バリウム検査②血液を採取して血液の中のがん細胞を発見する「腫瘍マーカー」の採血検査③特殊な装置で体を撮影してがん細胞の有無を確認する「PET検査」などの選択肢を提示された。しかし、どの検査を受ければいいのか分からず、頭を抱えてしまった。

藤井院長は「高齢者でも、一度でも陽性が出た場合は積極的に内視鏡検査を受けるべきだ」と促す。下剤の使用については、「確かに大量の下剤を飲み、腸が破れることが100万人に1人と非常にまれだがある。これは、飲む下剤の量を少なく工夫したり、院内で様子を見ながら飲んだりすることで危険性は回避できる」と指摘。そのうえで、「最近では医師の内視鏡操作技術が向上し、検査時の鎮痛剤などの工夫もされている。苦痛を感じず検査が受けられる病院やクリニックも増えている」とアドバイスする。



検査承諾書の前に「怖くて足が震えてしまった」と話す山口京子さん(仮名)

大腸がんの精密検査の費用は分かりづらい。医療保険制度に詳しい医療経営コンサルタントの秋元聡さんによると、精密検査の種類や実施施設などによって、医療保険が適用にならない場合があるので注意が必要だという。

保険適用か、事前に確認を

秋元さんによると、大腸内視鏡検査は「がんの疑いがある」とされる段階から医療保険が適用になる。1回でも便潜血テストで陽性になれば、75歳以上の自己負担額(1割)は、約2000円にプラスして薬代がかかる程度という。ただし、病院併設の検診センターなどは医療保険で請求できない場合があり、自費扱いになる可能性も。「事前に保険が適用されるか確認してほしい」と秋元さん。

大腸のバリウム検査や腫瘍マーカーも同様に、「がんの疑い」から医療保険が適用される。バリウム検査の自己負担額は75歳以上の場合は10000円前後、腫瘍マーカーは数百円(どちらも検査料部分の金額)。